2030年の「心豊かなライフスタイル」

未来のあたりまえを考える

モノづくり日本会議（事務局＝日刊工業新聞社）のネイチャー・テクノロジー研究会は7月1日、東京・市ヶ谷のDNP市谷田町ビルで「2030年の『心豊かなライフスタイル』～未来のあたりまえを考える」コンテストの表彰式を行う。賞金総額は100万円。376作品のうち、優秀な11件を表彰する。このうち6件は中学生以下の子どもたちの作品で、独創性と魅力にあふれる。地球環境やエネルギーに優しい、新時代の生活シーンは今後のモノづくりやサービス開発の良きヒントになりそうだ。表彰式は研究会のシンポジウム（共催日刊工業新聞社、大日本印刷）の中で開催される。

モノづくり日本会議
―モノづくり推進会議 NextStage―

■講評

審査委員長　石田 秀輝さん（東北大学大学院教授）

ネイチャー・テクノロジー研究会コーディネーター

地球環境のために我慢するのではなく、心豊かに生活できるライフスタイルを考えてみようという呼びかけに、予想をはるかに超える多くの方が応募してくださいました。提案された作品のどれもが、さらに議論を深めることで素晴らしい作品になることは審査委員の共通した意見でしたが、応募作品の一つひとつはとてもすてきで多くの方が、今の延長ではないあたらしい価値を求めていることを強く感じました。また、審査委員には、第一線で御活躍の環境、デザイン、テクノロジーなどの専門家に参加頂き、多様な視点で素晴らしい議論を重ね、大賞1、優秀賞2、ジュニア企業賞・その他企業賞各4件を選ばせて頂きました。

応募作品は総じて自然、エネルギー、人とのかかわりを中心としたものが圧倒的でした。大賞の『ハーフメイドものづくり』は、最低限の機能を付加した半完成品の状態でとどめた商材を市場に投入し、残りはユーザー自身が創り上げるというものです。今あらゆる商材が完璧でなくてはならず、ほんのちょっとした傷でも廃棄やクレームの対象となる時代に、ユーザー自身が商材を仕上げるという、全く異なる概念を導入したものです。優秀賞の2件はともに子供たちからの提案です。『未来×ハウス』では、じいちゃんは「藁(わら)ほど断熱作用のあるものはない」と子供を諭し、そんなすてきなじいちゃんと暮らす、自然をうまく利用した家の提案です。また、『家族が1つになることで』では家族が全員そろって一つの家で暮らすことの素晴らしさを提案してくださいました。

今の延長ではない新しい価値の追求

こうしてみると、「あたりまえの未来」は、何か特別なものではなく、誰が考えても本当にあたりまえのことなのに、そしてそれをみんなすてきだと思っているのに、社会もテクノロジーも全く違う方向に全力で進もうとしているようです。みんなが自立型のライフスタイルを求めているのに、依存型のライフスタイルに向かわせようとしているとも言えます。子どもたちは特にそれを敏感に感じ取り、警鐘を鳴らしているように思えて仕方ありません。

あらためて、心豊かであるということは一体どういうことなのか考えさせられました。それはお金という物差しではなく、自然に生かされ、それをうまく生かし、そのうえで家族を中心とした人の笑顔が成立する、そんな物差しで計るものなのだと、応募作品を通して強く思うと同時に、そんなものつくりや暮らし方のか・た・ちを創ることこそが、我々のそして次の世代への責任だと今強く感じています。

講評

環境を専門とする立場から、応募作品全てに目を通すにつれ、感動感激の連続であった。これほどまで未来のライフスタイルに対し、環境をキーワードとした未来を皆さんが考えているのかと言う、改めての驚きであった。しかも人任せである応募は数少ない。ほとんどが自分を主人公に置いて自らが環境にどのように関わるのかと言う視点からの提案であった事もまた感動を呼んだ。

審査委員　涌井 雅之さん（東京都市大学教授）

自分を主人公にして環境にかかわる

もう一点、驚かされたのは、家族を中核に据えたコミュニティー・デザインとでも言うべき提案と応募が多かった事である。マイではなくウイ。自助でも公助でもない共助により望ましいライフスタイルを得ようとする提案の多さであった。

分けてもお子さん方の応募には、素直な夢が語られていた。昨今技術の世界に対する不信が募る中、夢がまずあって、それを実現する手だてとしての科学があり、やがてそれが技術開発につながると言う当たり前の構図が失われて久しかっただけに、空を飛んでみたいと言った夢が飛行機を開発できたような明日に見る夢が素直に語られていた。我々工学に関係するものは、人の夢とつながらねばならないと言う本質を改めて悟らされた意味は大きい。

未来の生活を思い描くとき、基盤となる現在のデータは決して明るいものではありません。環境劣化、資源の枯渇、人の関係の薄さ。数えあげればたくさんの問題をかかえている現実から、心豊かなライフスタイルをどう描けばいいのか。でも、そこを押してこのコンテストに挑んでくださった応募者に強い共感を覚えました。

審査委員　小池 一子さん（クリエイティブ・ディレクター）

応募者の気概に共感　産業界は決断を

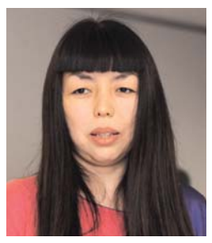
うん、みんな分かっていて、それでもこういう価値を生み出せるのでは？といった気概を提案から感じることができるのです。

大賞の「ハーフメイド」という考え方は、作り手と使い手の価値観に変革を促す提案です。衣食住の各領域ですでに始まってはいるのですが、まだ大きなうねりにはなっていない〝生き方〟の選択とも言えます。個人の段階では手作り、DIYなどがありますが、むしろ製品を提供する産業の側の決断にかかっていると思います。

優秀賞が象徴していて、全体にも言えることですが、環境への配慮をした上でテクノロジーに期待をかける方向と、「家族が1つに」といった愛情のつながりを大切にする方向も印象に残りました。

文化の伝承を絶やさないという意味で「思い出」につながるものへの考察も重要な指摘でした。

東日本大震災後の日本人は、日本という家の皆兄弟でもある事を改めて認識し、「皆で何とかしなければならない」という意識を持った。日本人がもともと持ち合わせた秩序や歴史を踏まえ、自然に対して非常に謙虚でありつつ未来を創造しようと、日本は先進国のまた先へと大きく一歩踏み出した。このたびのコンテストはまさに、その見える形であったといって良いであろう。



審査委員　髙橋 正実さん（MASAMI DESIGN代表）

未来を創造する力と、世代間の交流と

老若男女、多くの方々の未来を創造する力が集まり、個々の作品をつなぎ合わせることで生まれる、幅広い世代間の交流を求める姿もが見え隠れし、我々コンテストに携わる者たちは、そのつなぎ役を行わなければいけないことをも実感した。コンテストは、とても可能性を持った良い場になっていると感じた。

大賞「ハーフメイドものづくり」は、多様な社会を構築してきたこれまでの日本の歴史や人々の積み重ねを無駄にせず、時空間的にも個人々々に合ったより良いものづくりの提案。さまざまな「修理」が可能なことも見え隠れするし、「永遠」という思いも感じられる。もともと日本にある考え方でもありつつ、そこにこれからの未来を感じた。

優秀賞2点のうちの一つ「未来×ハウス」には、12歳である作者の方とご家族との信頼関係をも垣間見ることができる。そこにまた強い「軸」と「根っこ」を持った「大木」なる未来を感じずにはいられなかった。

応募作品には私の想像を超えた素晴らしいアイデアがたくさんありました。とりわけ子供たちの純粋な心から生み出されたアイデアは、夢にあふれ希望に満ちていて心が洗われました。

審査委員　木村 文雄さん（近畿大学特任教授）

見習おう 子供たちの発想力

私は審査を通して子供たちの発想力を大人たちも見習う必要があるのではと、あらためて感じました。

優秀賞の「未来×ハウス」は単に先端技術を生み出していくことだけが重要なのでなく、それにじいちゃん（先人）の知恵に耳を傾け、上手に融合することがとても大切なのだということを子供ながらの実感として示唆しています。

同じく優秀賞の「家族が1つになることで」は、核家族が定着してしまった現代社会で、これは仕方ないと諦めてしまう多くの大人たちに、もう一度考え直す必要があるのではという鋭くも心温まるメッセージが込められていると思います。

大賞の「ハーフメイドものづくり」は、多くの企業（メーカー）のやり方に一石を投じたと思います。現代社会ではほとんどが完成品として販売されているなか、それらの多くが決して生活者のためではなく企業の論理であることに気付かされるはずです。この提案を拝見し「もっとゆっくりつくろうよ！」というメルクマールを感じました。

今回受賞された他のアイデアも素晴らしいのですが、賞にもれた中にも、もっと話を聞いてみたいと思うすてきなアイデアが数多くありました。今回このような審査に参加させて頂いたことに心より感謝致します。

今回、子供たちの提案が素晴らしかった、という印象が大きく残っている。3・11は、子供たちに、エネルギーや環境だけでなく、家族のありかた、さらには社会のありかたに思いを巡らせる機会となったことを改めて強く認識した。

審査委員　下村 政嗣さん（東北大学教授）

3・11と子供たち

薫(かお)の断熱作用を教えてくれる祖父が居る家族構成は、嘗(かつ)てこの国では、当たり前の風景であった。だから、人の思い出はモノの思い出として、そして生きる術として受け継がれていく。人間が作ったモノは故障もするから、修理をしながら、さらには知識があれば改良もでき、カスタマイズもできて楽しいに違いない。

だから、理科の勉強も楽しくなる？ハズ。ネイチャーランドでは、博物館のキュレーターが自然から学ぶ先端技術を教えてくれるかも。リカレント教育の場でもある博物館には親子で行こう。

ちょっと足を伸ばして、オリジナルのノマドシートを持って自転車で川堤の桜を見に行くか。自転車ロードは電気も起こす。雨が降ってきて発電力が低下したシートの充電は川の傍で。ちょっと疲れたので、路面電車で帰るとするか。・・・桜の遅い北国での〝白昼夢〟？

会員企業各社（五十音順）

岩谷産業株式会社 Iwatani 岩谷産業株式会社
アイシン精機株式会社 AISIN
アイダエンジニアリング株式会社 AIDA
愛知製鋼株式会社 愛知製鋼
旭化成株式会社 AsahiKASEI
アサヒグループホールディングス株式会社 Asahi
株式会社アマダ AMADA
株式会社アルゴグラフィックス ARGO GRAPHICS
アンリツ株式会社 Anritsu
イグス株式会社 igus
伊藤忠商事株式会社 伊藤忠商事
コマツ KOMATSU
株式会社エイチアンドエフ H&F
株式会社エジソン Engineer Group 株式会社エジソン
NTN株式会社 NTN
オーエスジー株式会社 ツール コミュニケーション オーエスジー
オークマ株式会社 OKUMA
株式会社岡村製作所 オカムラ
花王株式会社 Kao
兼房株式会社 KANEFUSA
キヤノン株式会社 Canon
キリン株式会社 KIRIN
積水ハウス株式会社 SEKISUI HOUSE
サントリーホールディングス株式会社 SUNTORY
株式会社ソディック ソディック
JX日鉱日石エネルギー株式会社 ENEOS
株式会社ジェイテクト JTEKT
シャープ株式会社 SHARP
昭和リース株式会社 昭和リース
独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 NEDO
株式会社スギノマシン SUGINO
住友化学株式会社 住友化学
株式会社スリーボンド ThreeBond
株式会社積水インテグレーテッドリサーチ SEKISUI
大同特殊鋼株式会社 大同特殊鋼
大日本印刷株式会社 DNP 大日本印刷
株式会社ダイヘン DAIHEN ダイヘン
大洋技研工業株式会社 Do Wonders TAIYO GIKEN
株式会社椿本チエイン Innovation in Motion TSUBAKI
THK株式会社 THK
TDK株式会社 TDK
株式会社デンソー DENSO
株式会社東海理化 東海理化
株式会社東芝 TOSHIBA Leading Innovation
東レ株式会社 TORAY Innovation by Chemistry
豊田合成株式会社 TOYODA GOSEI
トヨタ自動車株式会社 TOYOTA
株式会社豊田自動織機 豊田自動織機
豊田通商株式会社 豊田通商
豊田鉄工株式会社 豊田鉄工株式会社
トヨタ紡織株式会社 トヨタ紡織
トルンプ株式会社 TRUMPF
一般社団法人日本エンジニアリングアウトソーシング協会 NEOA
日本電気株式会社 NEC
日本トムソン株式会社 IKO 日本トムソン
日本航空電子工業株式会社 航空電子 Technology to Inspire Innovation
株式会社ハイオス HIOS
パナソニック株式会社 Panasonic
日立金属株式会社 Materials Magic 日立金属
日立建機株式会社 日立建機
株式会社日立製作所 HITACHI Inspire the Next
日立ツール株式会社 開発技術の 日立ツール
平田機工株式会社 Hirata 平田機工株式会社
ファナック株式会社 FA&ロボット&ロボマシン FANUC
株式会社不二越 NACHI
富士精工株式会社 C-max
富士通株式会社 FUJITSU
富士電機株式会社 富士電機
文化シヤッター株式会社 BX 文化シヤッター
本田技研工業株式会社 HONDA
三井化学株式会社 三井化学
三菱化学株式会社 三菱化学株式会社
三菱電機株式会社 三菱電機
MUTOHホールディングス株式会社 MUTOH
株式会社森精機製作所 DMG MORI SEIKI
株式会社安川電機 YASKAWA 安川電機
ヤマザキマザック株式会社 Mazak Your Partner for Innovation
株式会社山田ドビー YAMADA DOBBY
ヤマハ発動機株式会社 YAMAHA
りそな銀行 りそな銀行
リンナイ株式会社 Rinnai

モノづくり日本会議
―モノづくり推進会議 NextStage―
事務局 〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14番1号（日刊工業新聞社内）Tel.03-5644-7608 http://www.cho-monodzukuri.jp